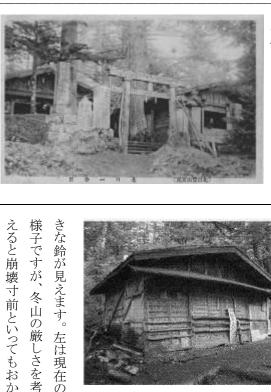
おやま道をたどる ⑥ 合目 鈴原社

て木造の鳥居があったとのこと

という言葉を実感できるように 中を進むようになり、「木山」 なります。 馬返しより登山道は木立の

ました。大日如来は浅間明神の はかつて大日如来が祀られてい とです。 ある鈴原社に着きます。ここに 初の社として安置されたとのこ 本地仏ということで、登山道最 五百ぱほど登ると一合目に



前 「まねき」が多く奉納され、名 景、下段右は拝殿のアップです。 右の写真は、 を象徴するような大 登山道からの全

しくありません。

りには、「二合目一の鳥居」とし

二合目手前の一合五尺あた 二合目 小室浅間神社

> 富士河口湖町)の里宮境内に 昭和四十七年には、勝山村(現 御室浅間神社を「上浅間」とす 社とも言われています。また、 ようです。御室(小室)神社は です。この鳥居は御室浅間神社 宮」とされていた関係もあり、 南岸の富士御室浅間神社の「山 る呼び方もありました。河口湖 吉田の浅間神社を「下浅間」、 富士山中で最初に勧請された 境内であるという認識があった 味で、その鳥居から先は神社の に対する最初の鳥居という意



われます。 仰が盛んだった地で、尊師が江戸 講よりも古い形態をもつ富士信 そうした素地があったからと思 美杉村川上にお生まれになりま に出て富士講に入信されたのも、 した。古来、伊勢志摩地方は富士 食行身禄尊師は、三重県一志郡

者に良からぬことが起こった 尊師の本姓は小林氏ですが 一時は人手に渡り、 御生家は久保文良 所有



聖地巡拝⑥

身禄尊師御生家

所をご紹介いたしましたが、今回 は、食行身禄尊師の御生家を訪ね 角行尊師、食行尊師の墓

氏に依ってお守りされていま 移転され、 川向うの非浦に小林家本家は

> どの家組みは往事のまま立派 保氏の御内室は小林家の出と といわれた御生家ですが、 身禄生家の碑が建立されまし きであった屋根がトタン葺き 保氏の御尽力によって、 いうこともあり、 久保氏の御力で平成九年には に保存されております。また、 に変わった程度で、五十坪ほ 何よりも久 草葺

等が長らく小林家でお祀りさ 託されました。 に文化財指定となり、 れていましたが、先年三重県 尊師に関わる文書・御遺髪

